

『みどりのわ・ささえ愛プラン』区民アンケート 調査結果(概要版)がまとまりました!



【調査概要】

- 調査対象 : 緑区内にお住いの20歳以上の方4,500人(95人の外国籍区民含む)
- 抽出方法 : 住民基本台帳等から無作為抽出
- 回収数等 : 1,305票(回収率29.0%) ※平成26年度回収率28.9%
- 調査期間 : 令和元年6月22日~7月16日
- 調査方法 : 郵送による配布・回収 ※横浜市電子申請・届出サービスも併用

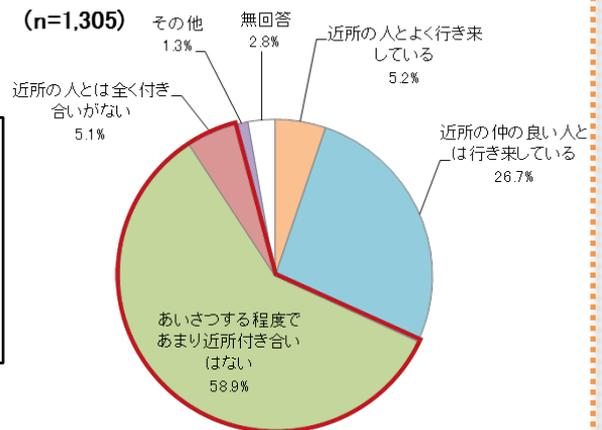
1. 地域とのつながりについて

◆近所付き合い

「あいさつする程度であまり近所付き合いはない」、「近所の人とは全く付き合いがない」人が回答者の約6割を占める。地域コミュニティの希薄化が見受けられる。

Q: あなたご自身は、どのようなご近所付き合いをしていますか。

- 近所付き合いが少ない人の割合は、多い人の割合の「約2倍」。地域コミュニティの希薄化が進んでいることが分かります。
- なお、この傾向は、年齢別でも大きな差はなく、全ての年代で同じような傾向となっています。

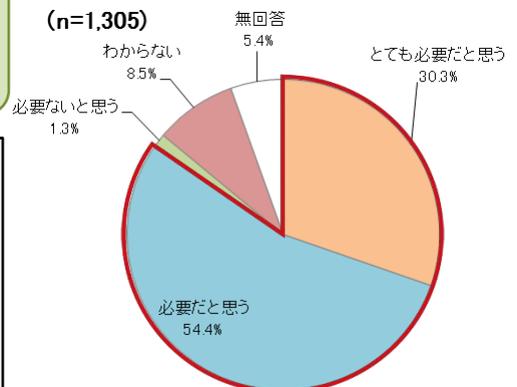


◆顔の見える関係づくり

災害時のことを踏まえると、日頃の顔の見える関係づくりは「必要」という区民が8割超。

Q: 災害時に地域での助け合いが上手くいくためには、日頃からお互いを気に掛け合うなど、顔の見える関係づくりに取り組むことは必要だと思いますか。

- 近年の災害発生状況も踏まえて、区民の方の多くが、顔の見える関係づくりは大切であると実感しているということがうかがえます。
- なお、自治会加入・非加入別では大きな差はありませんが、近所付き合いが多いほど、「必要性を強く感じている」人が多いという結果になっています。

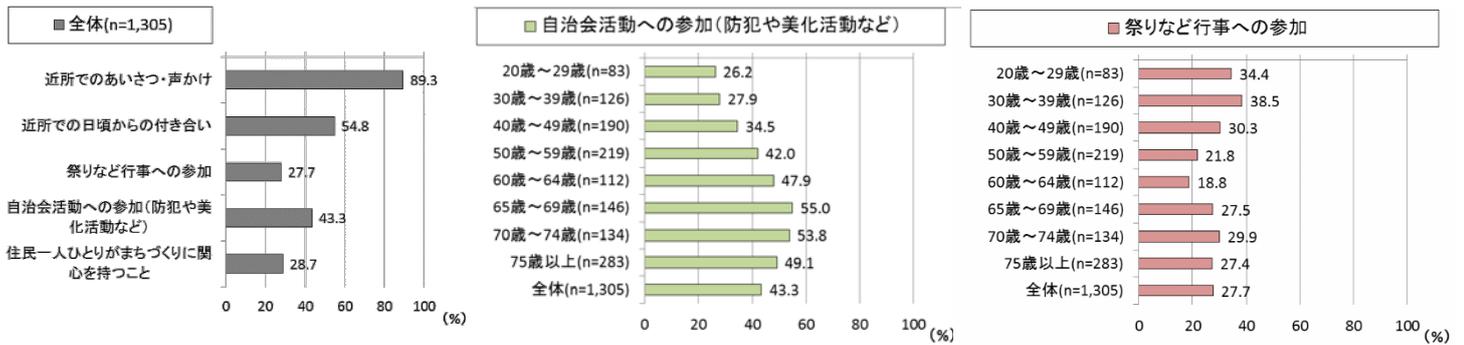


◆顔の見える関係づくりのために必要なこと

年代を問わず、「あいさつ・声がけ」「近所での日頃からの付き合い」の回答が多い。

Q：地域で「顔の見える関係」を築いていくためには何が必要だと思いますか。（複数回答可）

- 顔の見える関係づくりのためには、「近所でのあいさつ・声がけ」「近所での日頃からの付き合い」が必要との回答が多い傾向にあります。先述のとおり、実際の近所付き合いは希薄化しています。
- なお、「自治会活動への参加」の回答は、年齢が高くなればなるほど多くなり、「祭りなど行事への参加」は20～30歳代を中心に多い傾向があります。



◆地域活動への参加意向

参加者としても担い手としても、現在に比べて今後は参加したいとの意向が大きい。

Q：あなたは、地域で行われている取組に現在参加していますか。また、今後参加してみたいですか。（現在・今後ともに複数回答可）

■ 健康づくりの活動（ウォーキングや体操など）

n=1,305

カテゴリー名	現在	今後
参加者として参加	8.4%	28.6%
担い手として参加	1.2%	4.0%
参加していない・参加したいと思わない	59.3%	21.2%
活動を知らない・わからない	17.2%	30.3%

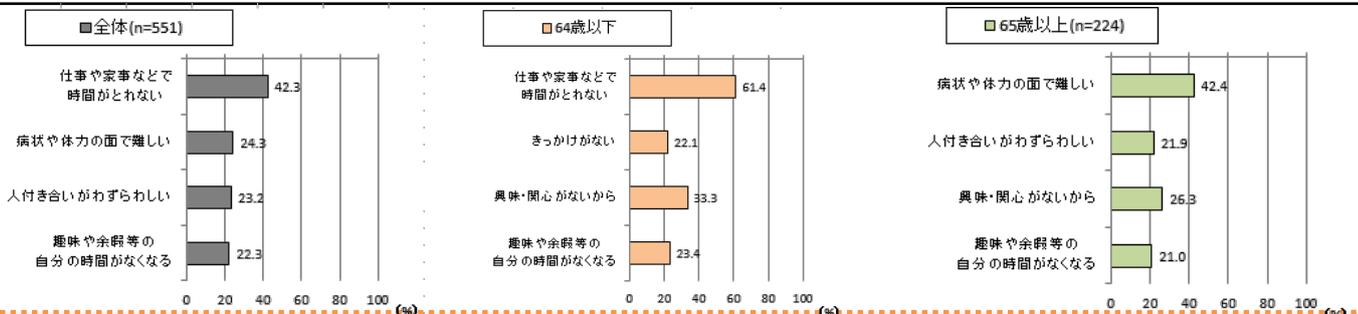
- 地域活動への参加意向については、現在の参加状況と比べて、今後の参加意向の方が大きい結果となっており、参加者としても担い手としても区民の参加意向が少なからずあることがわかります。
- 一方で、現在、活動自体を知らない人も一定数おり、情報を広く区民に伝えることが必要と考えられます。
- なお、性別、世代、自治会加入状況を問わず、傾向はほぼ同様です。ただし、近所付き合いが少ないほど、参加意向は低くなる傾向があります。

◆不参加の理由

64歳以下は「仕事や家事」、65歳以上は「病状や体力」が理由として多い傾向。

Q：地域活動について「今後『参加したいと思わない』」と回答した方にお聞きします。参加したいと思わない理由は何ですか。（複数回答可）

- 年代を問わず「興味・関心がないから」という理由は高い傾向があります。
- 64歳以下では「仕事や家事などで時間が取れない」との回答が多く、65歳以上では「病状や体力の面で難しい」との回答が多い傾向があります。
- なお、20～29歳は「きっかけがない」の割合が高く、きっかけさえあれば参加したいという気持ちがあることがうかがえます。

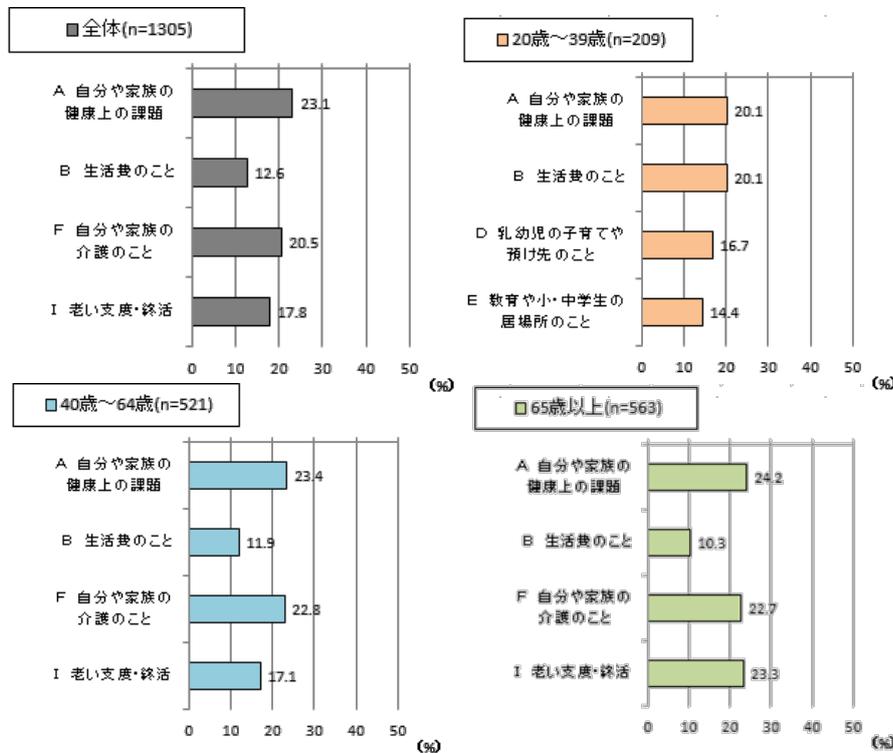


2. 日常生活の困りごとについて

◆生活上、特に困っていること

年代によって困りごとの傾向が違っている。

Q：13項目のうち、特に気になっていることや困っていることはどれですか。（3つまで回答可）



- 年代が上がるにつれて、「自分や家族の健康上の問題」「自分や家族の介護のこと」「老い支度・終活」を気に掛けている傾向があります。
- 39歳以下では、「B生活費」が他の年代よりも高くなっています。
- なお、細かく見ると、「D 乳幼児の子育てや預け先のこと」や「E 教育や小・中学生の居場所のこと」の回答は30歳代で多い傾向がありました。

◆生活上の困りごとの相談先

区役所などの「公的機関」よりも、最も身近な「家族・親戚」が選ばれている。

Q：現在、ご自身の暮らしの中で、次の13項目について、気になっていたり困っていたりしていますか。困っている場合は、相談先として想定しているものを挙げてください。（複数回答可）

- 「自分や家族の健康上の問題」は「かかりつけ医」、その他の「自分や家族の介護のこと」などの困りごとについては、「家族・親戚」を相談先として挙げている方が多くなっています。また、区役所やケアプラザを想定している方もいます。
- 一方で、「生活費」「求職活動」「老い支度、終活」については、区役所などの公的機関も相談窓口となっているものの、相談先として挙げている方は少ない状況です。

n=1,305

カテゴリー名	1位	2位	3位	4位	5位
A自分や家族の健康上の課題	かかりつけ医 26.3%	家族・親戚 16.7%	友人・知人 6.7%	相談しない・自己完結 3.7%	相談先がわからない 3.1%
B生活費のこと	家族・親戚 10.4%	相談しない・自己完結 9.0%	相談先がわからない 3.2%	友人・知人 1.6%	区役所 1.5%
C求職活動のこと	相談しない・自己完結 4.7%	家族・親戚 3.1%	友人・知人 2.7%	相談先がわからない 2.6%	その他 2.3%
F自分や家族の介護のこと	家族・親戚 14.3%	地域ケアプラザ 7.4%	相談先がわからない 6.3%	区役所 5.3%	かかりつけ医 4.7%
I老い支度・終活	家族・親戚 13.6%	相談しない・自己完結 9.1%	相談先がわからない 8.6%	友人・知人 6.1%	区役所 1.4%

◆隣近所の助け合い

隣近所で支え合う意向は、現在よりも今後の方が高く、支え合いの気持ちが根付いています。

Q：地域に困っている人がいる場合、「現在」手助けをしていること・「今後」手助けをできることはありますか。（複数回答可）

- ・ 現在・今後ともに「安否確認の声掛け」が最も多く、「話し相手・相談相手」「登下校時の見守り、防犯パトロール」「日用品などの買い物」「ごみ出し」が多い結果でした。いずれも現在よりも今後の方が高い状況です。
- ・ なお、性別や年齢を問わず同じような傾向となっています。

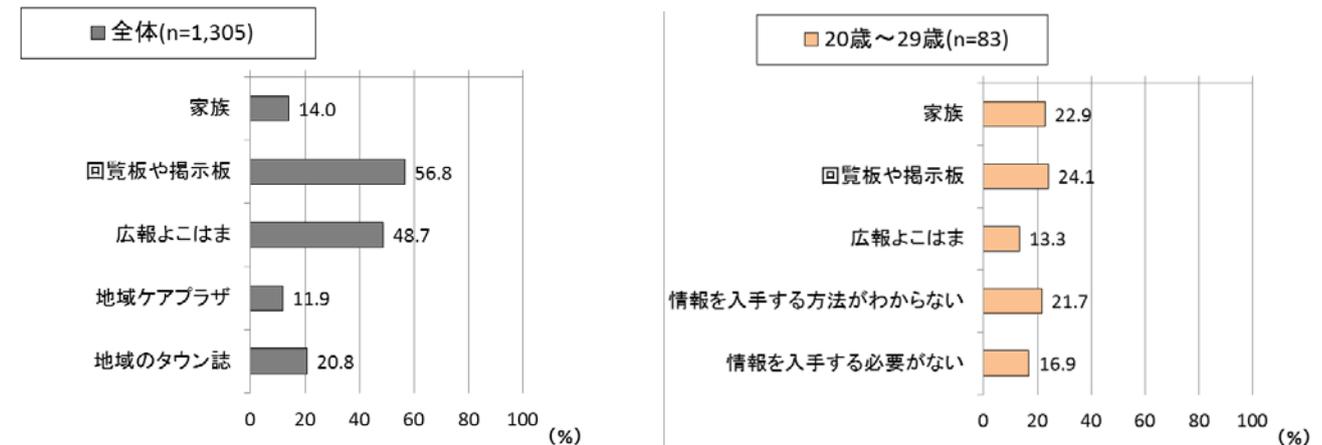
カテゴリー名	現在手助けしている	今後手助けできる
A 安否確認の声かけ	9.7%	54.9%
B 話し相手・相談相手	8.6%	36.6%
C 日用品などの買い物	2.5%	28.8%
E ごみ出し	3.8%	29.2%

3. 情報の入手方法について

「インターネット」よりも「回覧板や掲示板」「広報よこはま」等の紙媒体で入手することが多い。

Q：地域の福祉保健に関する活動の情報をどこから得ていますか。（複数回答可）

- ・ 年代によって傾向は異なりますが、概ね「回覧版や掲示板」、「広報よこはま」が多くなっています。また、「インターネット」については、全ての年代で決して高くない結果でした。
- ・ 20歳～29歳では、「情報を入手する方法がわからない」「情報を入手する必要がある」との回答が他の世代に比べて多くなっています。



・ 小数点以下第2位を四捨五入、または複数回答の項目があるため、グラフの回答割合の合計が100%にならない場合があります。

令和元年12月発行

担当：緑区福祉保健課 事業企画担当 〒226-0013 横浜市緑区寺山町118番地

電話：045-930-2304 FAX：045-930-2355